



いつも通りの
水加減でOK。

最近は、新米・古米ともに出荷時点での水分量を15%程度に調整しています。新米だからといって水加減を調整する必要はありません。

知れば納得!

それでも「いつも通りの水加減、火加減だとやわらかく感じる」ことがあります。それは、新米は細胞組織がやわらかいので吸水しやすいため。そんな場合は、沸騰するまでの時間を短くするために、水をキモチ少なめ(3~5%程度)にしてみてもよいでしょう。



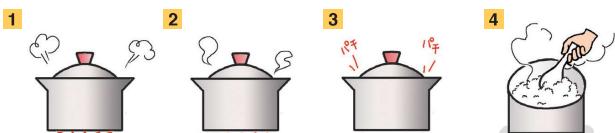
始めチョロチョロ
中パツパツ?

鍋焼きの基本は、
「始めパツパツの
中チョロチョロ」。

とくに細胞組織がやわらかい新米の場合は、最初に一気に沸騰させ、お米の表面を糊化させるのがおいしく炊き上げるコツになります。

お鍋で炊いてみよう!

【用意するもの】
●鍋(土鍋でも、ふつうのお鍋でもOK!)
●米1合に対して水約1.3~1.5倍(195~225ml)※2合以上で炊くのがおすすめです。



浸水をすませた米を鍋に
セッテし、火にかけたら強
火にして、一気に沸騰せ
る。

弱火にして、吹きこぼれな
いように注意しながら沸騰
状態を保つ。

パチパチという音がし始めた
ら火を止める(1~3分)で約
15~20分。お米の量や火力
によって変わります。

浸水をすませた米を鍋に
セッテし、火にかけたら強
火にして、一気に沸騰せ
る。

弱火にして、吹きこぼれな
いように注意しながら沸騰
状態を保つ。

パチパチという音がし始めた
ら火を止める(1~3分)で約
15~20分。お米の量や火力
によって変わります。

ごはんソムリエに聞く! 新米の炊き方編

「ごはんは炊飯器におまかせ」という人も、
ほんのちょっとの工夫で、
おいしい新米がさらにおいしくなる!?
新米の炊き方をお米の専門家に聞きました。

**Q 水の量は
1割少なめにする?**

夏場は30分、
冬場は1時間が
浸水の目安。

新米・古米にかかわらずお米をふっくら炊き上げるには、中心までしっかり水を吸わせることが重要です。常温の場合、水に浸けて1時間もすると吸水が止まるので、ひと晩くらいならそのまま浸水させても大丈夫。ただし、長すぎると米粒がもろくなったり、雑菌が繁殖し始めます。気温が高い時期は冷蔵室で浸水させるのがよいでしょう。

知れば納得!

「ごはんを炊く」という作業は、お米の
でんぶんを加熱して糊化(アルファ化)
することです。芯までしっかり吸水さ
せないで炊き始めるとき、米の中心まで
水分が行き渡らないまま表面のでん
ぶんが先に糊化してしまうため、芯の
あるごはんになってしまいます。

30分 ~ 1時間



**Q 炊く前に
必ず浸水させる?**

教えてくれたのは
この人!



ごはんソムリエ
関根 史人さん

パルシステムの子会社、(株)ジーピー・エス
で産直米部門を担当。「ごはんソムリエ®」
の資格をもち、産直米の生産者と組合員
をつなぐパイプ役として、全国を飛びま
わっている。

*「ごはんソムリエ」とは...米の品種や炊飯の科学、
ごはんの栄養分など、ごはんに関するさまざまな知識
を身につけたごはんのプロフェッショナル。(社)日本
炊飯協会が認定。

どう食べよう



今年の新米



そろそろ新米の季節。つやつやと輝く炊き上がり、
ひと口含めばふわっと鼻に抜けるみずみずしい香り。

新米ならではの風味を味わい尽くすための
新常識&食べ方の工夫を紹介します。

新米のおいしさを長く保つ方法は!?



精米したお米は夏場は約30日、冬場は約50日をめどに食べるのがおいしくいただく秘訣。常温保存もできますが、密閉して冷蔵庫の野菜室など涼しい場所に入れるのがおすすめです。においや湿気を吸収しやすいので、流しの下は避けましょう。

お米は「生鮮食品」なんですよ!



お米って太りそう!?



炭水化物は身体を動かすエネルギー源になったり、腸内環境を整えたりするので、一定量とらないとかえって太る原因になります。なかでも、お米はたんぱく質やビタミン、ミネラル、さまざまな栄養素を含むため、ダイエットしたい人にこそ食べてほしい食品です。また、よく「かむ」と、胃腸がよく働くようになり、消化吸収が促進されます。その結果、便祕の解消にもつながります。ダイエットするなら、世界的に注目されているごはんとみそ汁を中心とした日本型食生活を基本にすえ、よくかんで食べるのが何よりの近道です。

目標は「ヒロ3回!」



安全とおいしさにこだわっています!

パルシステムのお米は、100%産直米。どこのだれが、どんな環境で栽培しているかが明らかなお米です。

産地では、化学合成農薬や化学肥料の削減に取り組み、たくさんのが生き物が姿を見せる、豊かな自然のなかで栽培。安心して食べられる、おいしいお米をお届けしています。

1年でお米がいちばんおいしいこの季節、ぜひもっとおいしく、そしてたくさん食べてくださいね!

“選ぶで変わる”
ほんもの実感
（ほんじょじきクション）